

## 発見いつぱい、下水処理

田 中 晴 悠

小郡市立三国小学校

ぼくは、宝満川浄化センターに見学に行つて、係の人から下水処理についてくわしく話を聞きました。今まで知らなかったたくさんの方が見てくれましたが、中でも、特におどろいたことが三つあります。

一つ目は、下水の処理の仕方です。薬だけではなく、目に見えない小さな生き物、その名も「活性汚泥」は、水の汚れを食べてたくさん増えるバクテリアや原生動物のような生き物です。水の汚れを食べ終ると、汚れとともに水の底にしばらく置いておきます。

二つ目におどろいたのは、水がどれだけきれいになるかということ。最初は、黄色くにごつて、ごみがうかんでいたけれど、浄化センターで、処理された水を見ると、とう明で、ごみのうかんでいない、水道から出てきた水のようにきれいになりました。これなら、川に流しても大丈夫だろうと思えました。水をきれいにしたあとのごみは、やいてレンガにするので、ごみもでないそうです。

三つ目におどろいたのは、下水処理をする過程で起こる、いろいろな問題です。下水を処理する時には、たくさん問題が起こります。その中でも特にこまる問題として、流れて来るごみや物に関する問題があるそうです。水はたくさんの方が使うので、どうしてもごみや物がまぎってしまいます。ちょっとしたごみや物なら処理できます

が、中には処理のむずかしい、やっかいなごみや物もあります。その一つが、油です。油を台所などから流してしまうと、油がまぎった水が、活性汚泥のいる反応タンクに流れて行きます。すると、油に弱い活性汚泥は、息ができなくて死んでしまいます。活性汚泥の増殖が止まって、数がどんどん減っていくのです。そうすると、ごみなどの汚れを処理できなくなってしまう。川に汚れた水を流すと、多くのトラブルが発生する可能性があります。油を流されると、とてもこまると係の方が話をされました。

見学を通して、下水管や下水処理しせつの働きは、とても大事だと思えました。そして、下水処理を助ける活性汚泥の力や、その活性汚泥を死なせないための、ぼくたち水を使う人たちの協力も必要だと強く思いました。これからは、自分の生活を見直して、ごみや物、油などを、できるかぎり水といっしょに流さないようにしようと思います。きれいな自然を守るために自分ができることから協力したいと思います。